

## 第2章

# 父親の育児観・父親の役割

持田 聖子



## 第1節

## 父親の育児観

## ◆子育てで力を入れたいことは、東京は他者への思いやりを持つこと、興味や関心を広げること。一方、ほかの都市に比べて、数や文字・外国語の学習はあまり重視していない◆

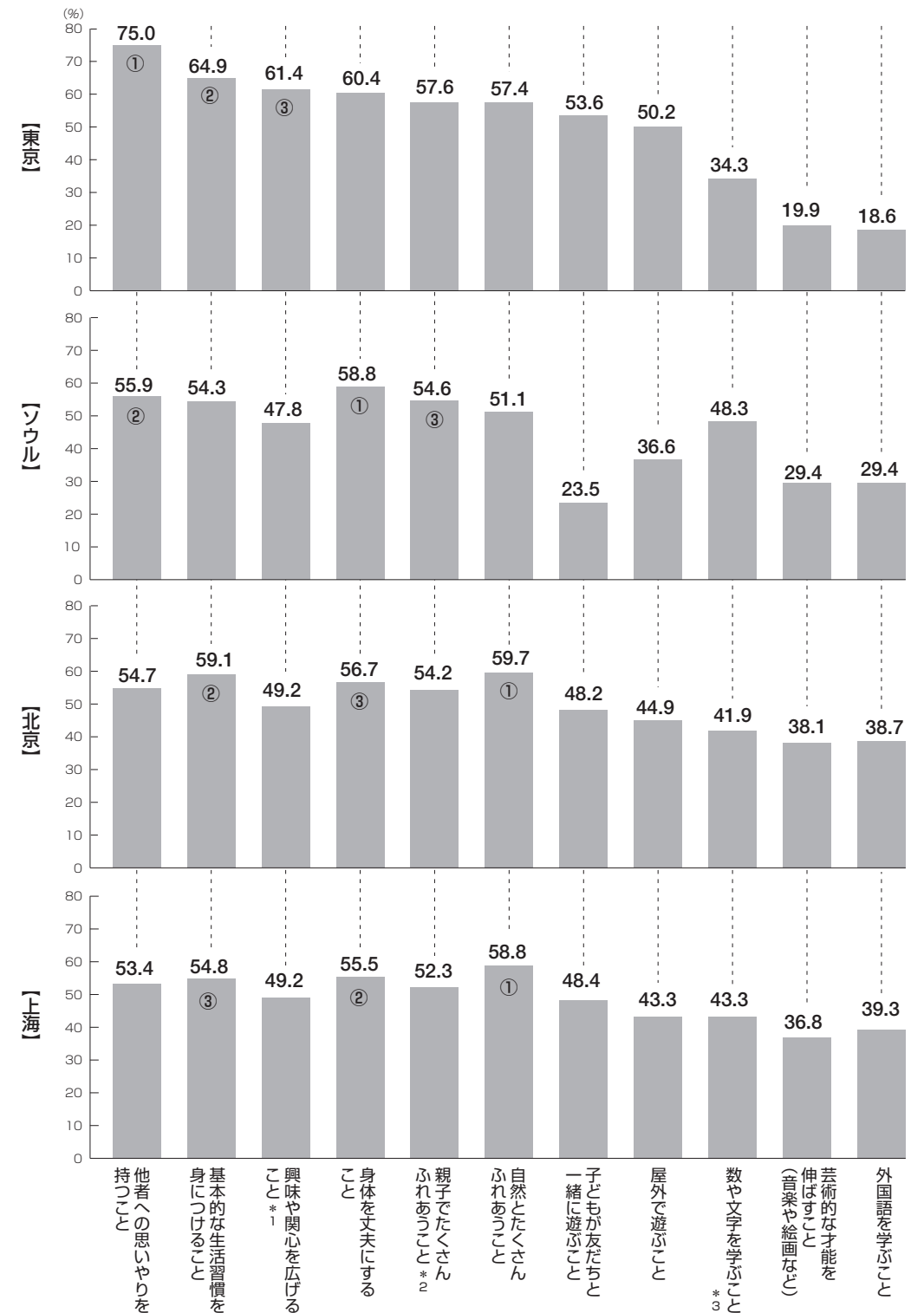
どのようなことに力を入れて子どもを育てたいかを4段階できいた(図2-1-1)。「とても力を入れたいと思う」と回答した比率で、各都市の特徴をみてみたい。

まず、いずれの都市でも5割以上なのは、「他者への思いやりを持つこと」(東京75.0%、ソウル55.9%、北京54.7%、上海54.4%)、「基本的な生活習慣を身につけること」(東京64.9%、ソウル54.3%、北京59.1%、上海54.8%)、「身体を丈夫にすること」(東京60.4%、ソウル58.8%、北京56.7%、上海55.5%)、「親子でたくさんふれあうこと」(東京57.6%、ソウル54.6%、北京54.2%、上海52.3%)、「自然とたくさんふれあうこと」(東京57.4%、ソウル51.1%、北京59.7%、上海58.8%)の5項目であった。

東京では、「他者への思いやりを持つこと」(75.0%)、「基本的な生活習慣を身につけること」(64.9%)、「興味や関心を広げること」(61.4%)が上位3位であった。とくに東京は「他者への思いやりを持つこと」は、ほかの3都市の回答比率より20ポイント前後高くなっていることが特徴である。一方、東京の父親の回答比率がとくに低いものは、「外国語を学ぶこと」「芸術的な才能を伸ばすこと(音楽や絵画など)」や「数や文字を学ぶこと」であった。「数や文字を学ぶこと」は、ソウルの父親がもっとも積極的である。北京・上海の父親は、芸術的な才能や語学力を伸ばすことに積極的な父親が、4割弱いる。

ほかの3都市は、東京の父親に比べて、「とても力を入れたいと思う」の回答比率は60%以上の項目はなく、突出した回答比率の項目はみられないが、その中で、ソウルは「身体を丈夫にすること」(58.8%)、北京・上海は「自然とたくさんふれあうこと」(北京59.7%、上海58.8%)がそれぞれの第1位であった。

図2-1-1 子育てで力を入れたいこと



注1) 「とても力を入れたいと思う」の%。

注2) 東京の降順で表示。

注3) \*1 ソウルでは「関心や才能を支援すること(体験活動など)」。

注4) \*2 ソウルでは「親とたくさん過ごすこと」。

注5) \*3 北京・上海では「算数や漢字を学ぶこと」。

◆子どもの将来に対する期待は、東京の父親は、自分の考えをしっかりと  
こと。そして人間関係を重視している◆

子どもに、将来どのような人になってほしいのかを10項目の中から3つまで選んでもらった(図2-1-2)。

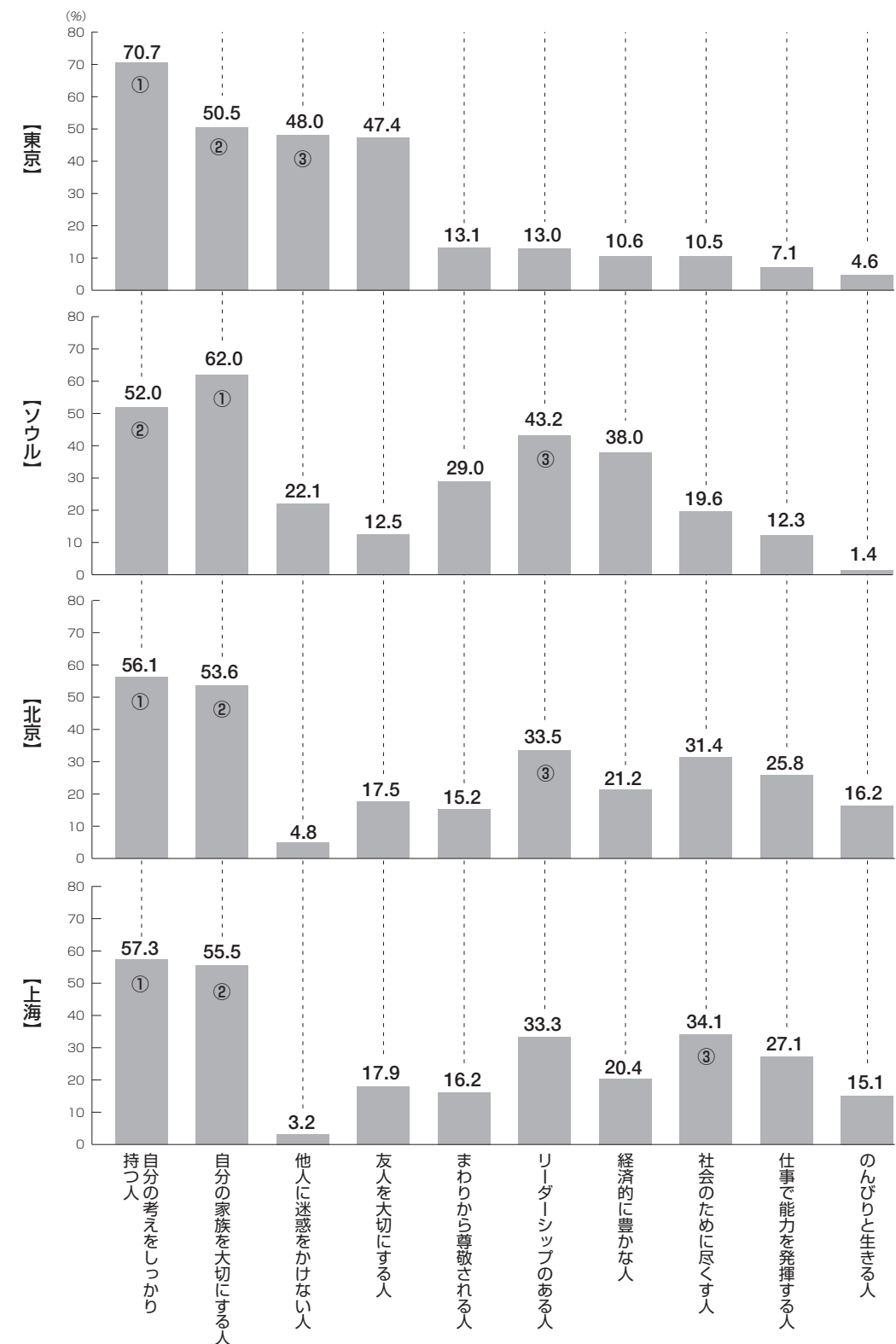
4都市共通して、回答比率が5割を超えたものは、「自分の考えをしっかりと持つ人」(東京70.7%、ソウル52.0%、北京56.1%、上海57.3%)と「自分の家族を大切にする人」(東京50.5%、ソウル62.0%、北京53.6%、上海55.5%)であった。家族を大切にしたいという願いは、とくにソウルの父親の回答比率が高いが、都市を問わず、多く持っている期待である。

各都市の回答特徴を、10ポイント以上差が出た項目でみてみたい。東京は、「自分の考えをしっかりと持つ人」が70.7%と突出して高い回答比率で、ほかの3都市とは15ポイント前後の差があった。東京とほかの都市での差が大きいのは、「友人を大切にしたい人」(東京47.4%、ソウル12.5%、北京17.5%、上海17.9%)と「他人に迷惑をかける人」(東京48.0%、ソウル22.1%、北京4.8%、上海3.2%)であった。本設問は、ベネッセ次世代育成研究所『幼児の生活アンケート 東アジア5都市調査 2010』でも各都市の3歳から6歳就学前の乳幼児を持つ母親を対象に調査しているが、「友人を大切にしたい人」と「他人に迷惑をかける人」は、東京の母親の回答比率がほかの都市と比べて突出して高かった。別の調査項目の表現が一部異なるため、純粋に比較することはできないが、周囲の人と良好な関係を築けることを願う気持ちは、父親、母親を問わず、東京の特徴であるのかもしれない。

ソウルは、「リーダーシップのある人」「経済的に豊かな人」「まわりから尊敬される人」の回答比率が、ほかの都市より高い。経済的、社会的な地位を重視する傾向にあることがうかがえる。

北京・上海の回答の傾向は似ている。東京・ソウルと比べて回答比率が高いのは、「社会のために尽くす人」と「仕事で能力を発揮する人」であった。東京の父親が高かった「他人に迷惑をかける人」については、北京・上海ともに1割に満たなかった。

図2-1-2 子どもの将来に期待すること



注1) 複数回答(3つまで)。  
注2) 東京の降順で表示。

### ◆進学への期待は、どの都市も、「大学卒業」以上を選択した比率は8割を超える。ソウル・北京・上海は、「大学院卒業」を希望する比率が東京に比べて高い◆

子どもの進学への期待は、どの都市も大学卒業以上の高学歴志向である（図2-1-3）。とくにソウル・北京・上海は大学院卒業を期待する比率が高い。

東京は、「大学卒業まで」が81.0%でもっとも高く、子どもの性別による差はほとんどなかった（男子83.4%、女子78.0% 図表省略）。「大学院卒業まで」はわずか5.7%であった。ソウルは、「大学卒業まで」は56.9%、「大学院卒業まで」は41.5%であった。後述するが、ソウルは、父親としての将来の不安として教育費をあげる比率がほかの都市に比べてとくに高かった。経済的な不安が高いにもかかわらず、子どもの大学院への進学を4割以上が望んでいた。

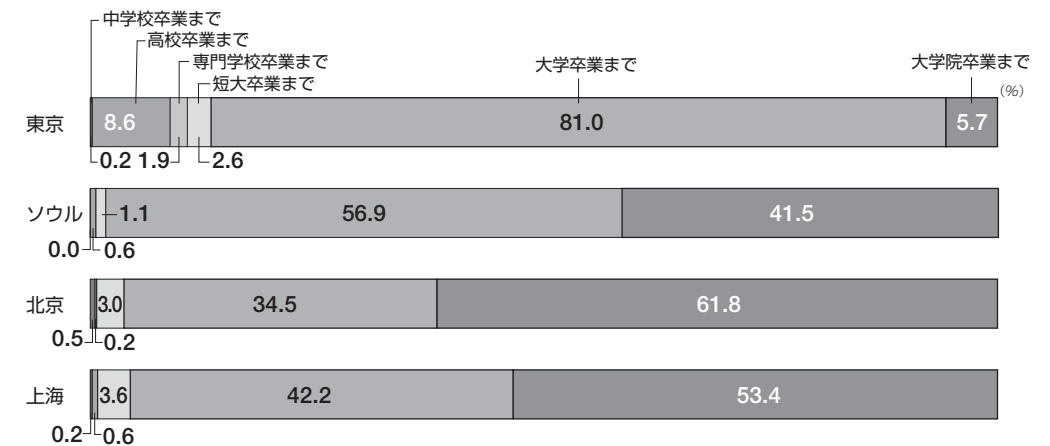
北京・上海の父親の高学歴志向は、ソウルよりさらに高く、「大学院卒業まで」（注：修士課程と博士課程と分けて質問したが、合算）は、それぞれ61.8%（北京）、53.4%（上海）と5割を超える。中国では、学歴や資格が高いほど、職階や収入もあがる社会であることも影響しているのかもしれない。また、対象の子どもは全員が第1子で、9割以上が一人っ子であることも、より子どもの進学に期待を込める原因かもしれない。

### ◆どの都市の父親も、8～9割が妻と子どもの将来について話をしており、とくに北京・上海の父親は話し合う頻度が高い◆

子どもの将来について、父親（以下、ここでは夫と表記）は妻とどのくらい話をしているのだろうか（図2-1-4）。「よく話し合う」と「ときどき話し合う」を合わせると、各都市とも8～9割が話し合っていると回答した。しかし、「よく話し合う」で比較すると、各都市で差が出てくる。東京は25.2%と4人に1人の比率であるのに対し、ソウルは36.8%と約10ポイント高く、北京・上海は、47.8%（北京）、49.3%（上海）と、約半数の夫が妻と子どもの将来についてよく話し合っていると答えている。

第1章の図1-3-14～16（p.107）で取り上げたように、北京・上海の夫は、子どもの絵本や本、ワークブックや習い事などを選ぶ際、「夫と妻で同じくらい」と回答する比率がほかの都市に比べて高かった。おもちゃなどを選ぶ際も、ほかの都市に比べて、「主に夫」が決めると回答する比率も高い傾向だった（例：p.106 図1-3-11～13）。中国では、一人っ子政策により、親がたった1人のわが子を過保護に育てる「小皇帝」問題が指摘されている。本調査でも、夫婦で子どものことを相談し合い、進学への期待もより高く、より積極的に育児にかかわっている傾向がみとれた。「小皇帝」が問題である反面、夫婦で子どものことを話し合い、父親が関与できることは幸せなことなのかもしれない。その背景には、第3章で紹介するが、父親の帰宅時間が早いことも影響しているだろう。

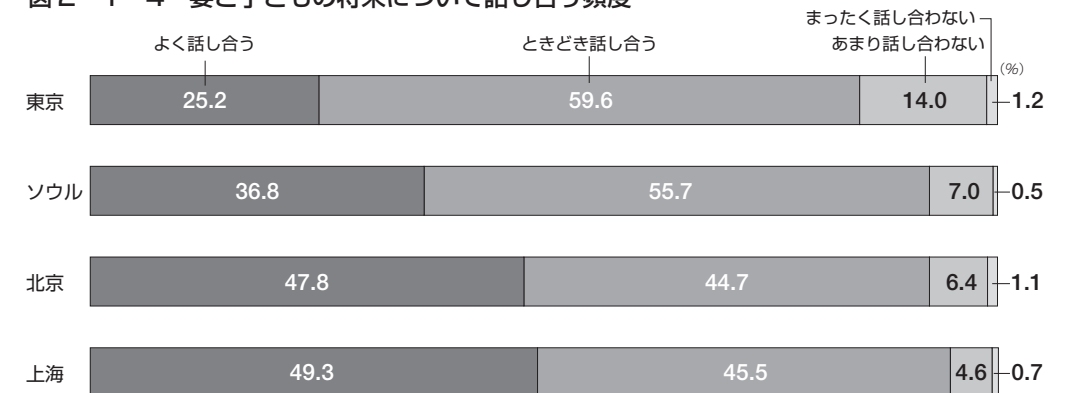
図2-1-3 子どもの進学への期待



注1) 「専門学校卒業まで」は東京のみの項目。

注2) 「大学院卒業まで」は、北京・上海は、「大学院修士課程卒業まで」と「大学院博士課程卒業まで」に分けてきた。図中の数値は、合算。

図2-1-4 妻と子どもの将来について話し合う頻度



第2節

# 父親像の理想・父親としての将来の不安

## ◆理想的な父親イメージの第1位は、東京は「頼りになる」、ソウル・北京・上海は「尊敬できる」◆

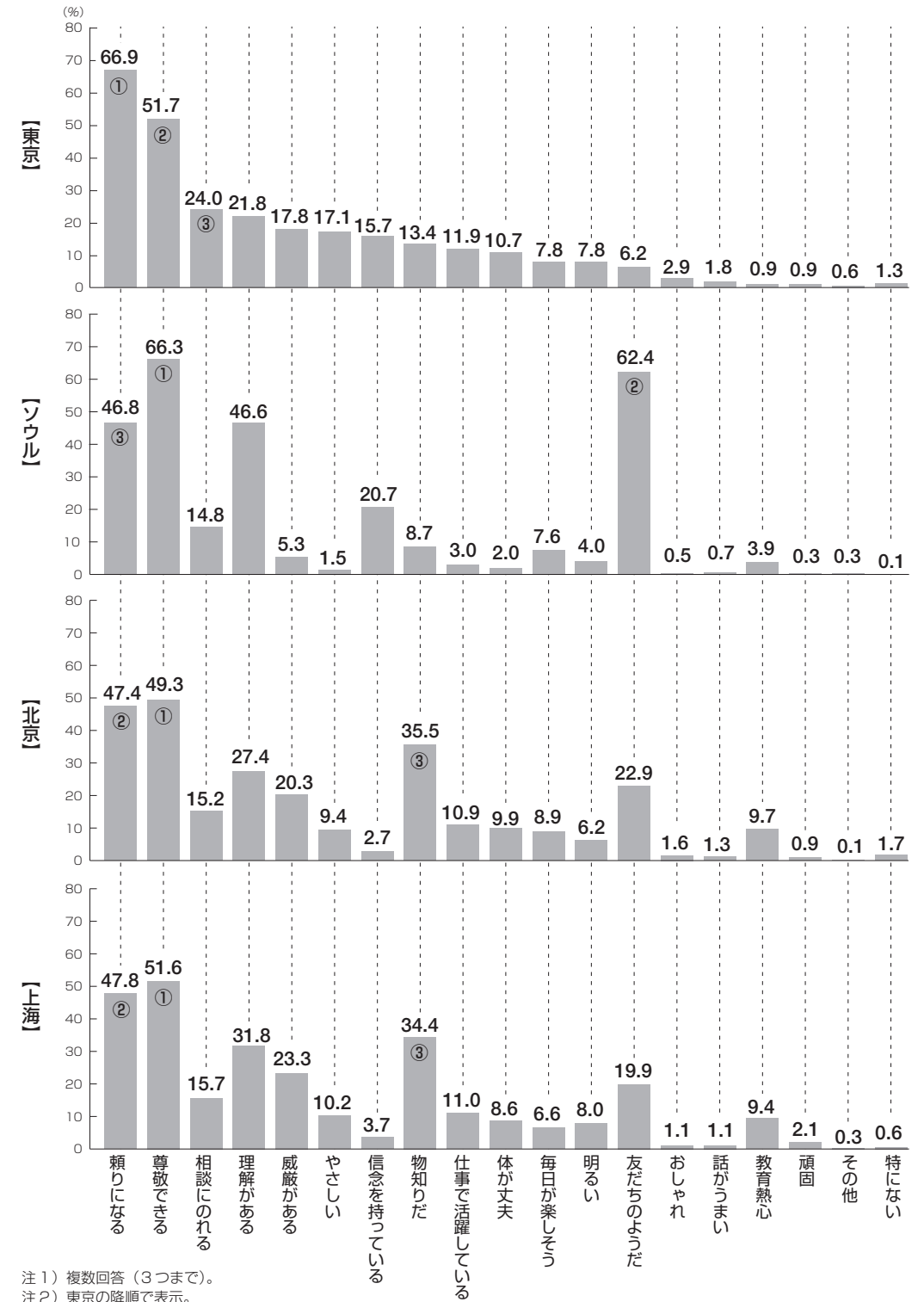
理想的な父親イメージについて、19項目から3つまで選んでもらい、東京の父親の回答比率の高い順に並べたものが図2-2-1である。

各都市の特徴をみると、東京では、「頼りになる」(66.9%)、「尊敬できる」(51.7%)が上位2項目で、その他は3割以下の選択率であった。父親とは、頼りになるイメージ、尊敬できる存在でありたいと東京の父親は思っているようである。

ソウルは、「尊敬できる」(66.3%)が第1位であったが、第2位には「友だちのようだ」(62.4%)という、一見すると相反するイメージの項目が入った。この「友だちのようだ」は、ほかの3都市と比べて突出して回答率が高い。調査票を韓国語に翻訳した際、「友だち」を、深い友情・信頼に結ばれた関係を示す「チング」と表記した。単に友だちのようなフランクな間柄ということではなく、深く心を開いて相談し合えるような信頼で結ばれた関係を父親が望んでこの項目が選ばれたと想像できる。

北京・上海は、回答の傾向が同じで、「尊敬できる」(北京49.3%、上海51.6%)と「頼りになる」(北京47.4%、上海47.8%)が上位2項目に選ばれた。これは、東京と同じである。特徴的なのは、第3位は「物知りだ」(北京35.5%、上海34.4%)で、東京(13.4%)、ソウル(8.7%)と比べて20ポイント以上高い。図2-1-1(p.117)であげたように、子どもに対して数や文字、外国語などを学ばせることにも力を入れている。高学歴・資格が重要視される中国社会では、物知りであることは理想的な父親像のようである。

図2-2-1 理想的な父親のイメージ



注1) 複数回答(3つまで)。  
注2) 東京の降順で表示。

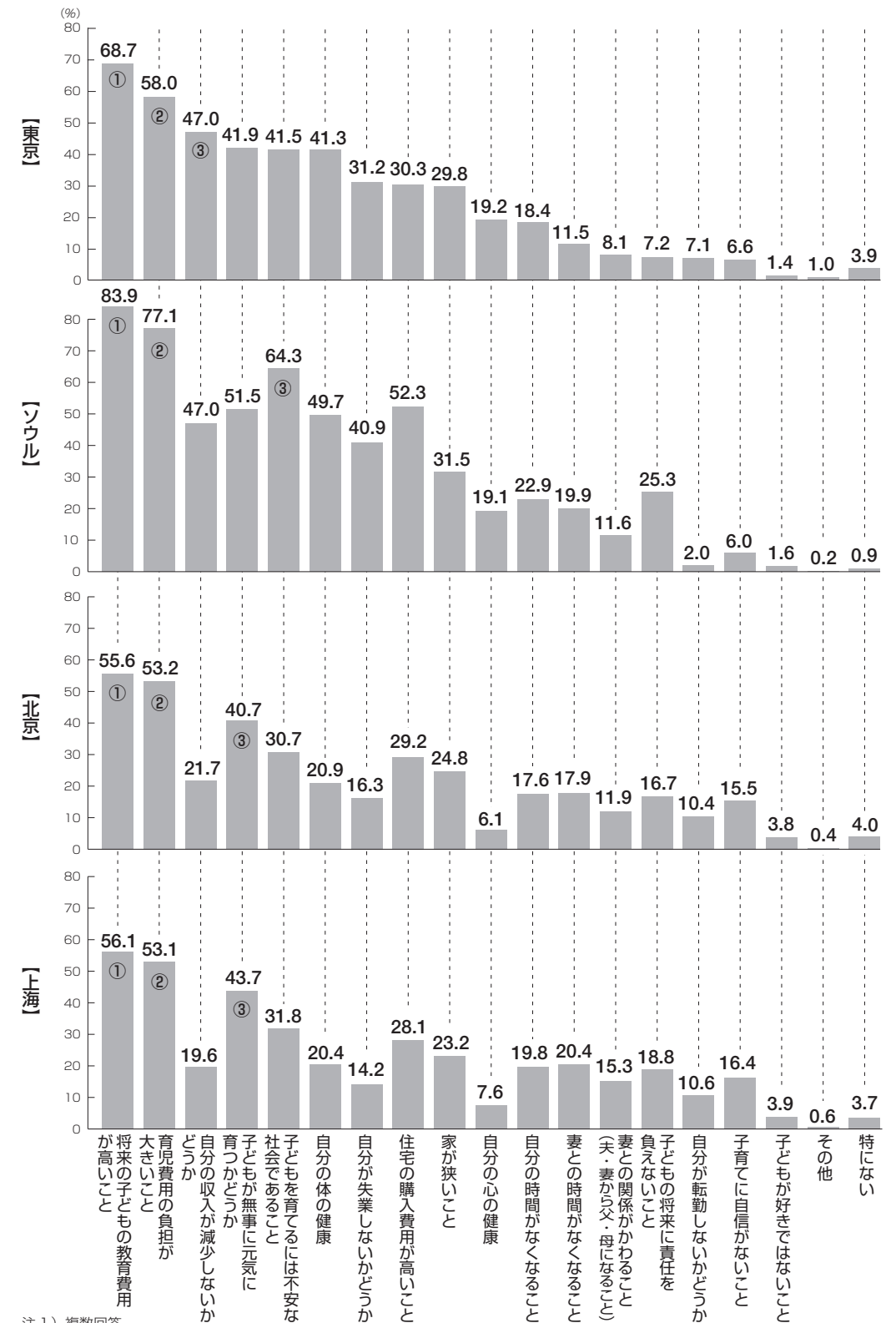
◆父親として今後不安なことは、子どもの将来の教育費と、育児費用の負担という経済的な不安。いずれの都市でも5割以上が回答し、4都市の父親が共通して感じる不安である◆

図2-2-2は、父親としての今後の不安を、19項目の中から複数回答で選んでもらった結果を東京の回答比率の高いものから並べたものである。本調査では、各都市の特徴をみることができが、ここでは、第1位、第2位に選ばれた項目が4都市とも同じで、東アジアの父親の共通の不安がわかった。

第1位は、「将来の子どもの教育費用が高いこと」で、東京（68.7%）、ソウル（83.9%）、北京（55.6%）、上海（56.1%）と、どの都市でも5割以上の父親が選択した。とくにソウルが突出して高い。第2位は、「育児費用の負担が大きいこと」で、東京（58.0%）、ソウル（77.1%）、北京（53.2%）、上海（53.1%）と、こちらも4都市とも5割以上の父親が選択した。この項目もソウルが突出して高く、7割以上の父親が選択した。

第3位に選ばれた項目は、東京は「自分の収入が減少しないかどうか」（47.0%）であった。不況を反映してか、不安の上位3位はすべて経済面での不安であった。父親として感じることを自由に回答してもらった設問でも、育児面での金銭的な支援を求める声が多かった（自由回答は東京のみの設問）。ソウルは、「子どもを育てるには不安な社会であること」（64.3%）が第3位であった。また、「住宅の購入費用が高いこと」（52.3%）も、ほかの都市と比べて20ポイント以上高い。ソウルの回答の特徴として、選択率の高い項目が多い。ソウルの父親は、多方面にわたり、父親としての不安を感じているようである。北京・上海の第3位は、「子どもが無事に元気に育つかどうか」（北京40.7%、上海43.7%）だった。対象の子どもの9割以上が一人っ子であることも影響しているのかもしれない。なお、この項目は、東京（41.9%）、ソウル（51.5%）でも、北京・上海と同様、高い選択率であった。

図2-2-2 父親としての将来の不安



注1) 複数回答。  
注2) 東京の降順で表示。

## ◆子どもの成長ぶりや、子育ての肯定感などの意識は、 いずれの都市の父親も高い◆

本調査では、「あなたは、最近次のようなことをお感じになることがありますか」というかたちで、子育てや子どもの成長に関する父親の意識をきいている（図2-2-3・4）。「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだ」「子どもがかわいくてたまらない」といった、子ども・子育てそのものに対する肯定感、いずれの都市の父親も、ほぼ半数以上が「よくある」と回答した。「ときどきある」を合わせると、いずれの都市の父親も9割以上が回答している。意識をきく設問は、概して、東京の父親はやや控えめな回答をする傾向があり、一方、北京・上海は積極的に回答する傾向がみられるが、これらの肯定的な意識では、4都市全てで高い傾向であった。将来の不安の高い傾向がみられるソウルの父親は、子育てに対する肯定感をもっとも高い。子どもを愛し、子育てを大切に思うからこそ、父親としての不安も高まるのだろうか。

図2-2-3 子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだ

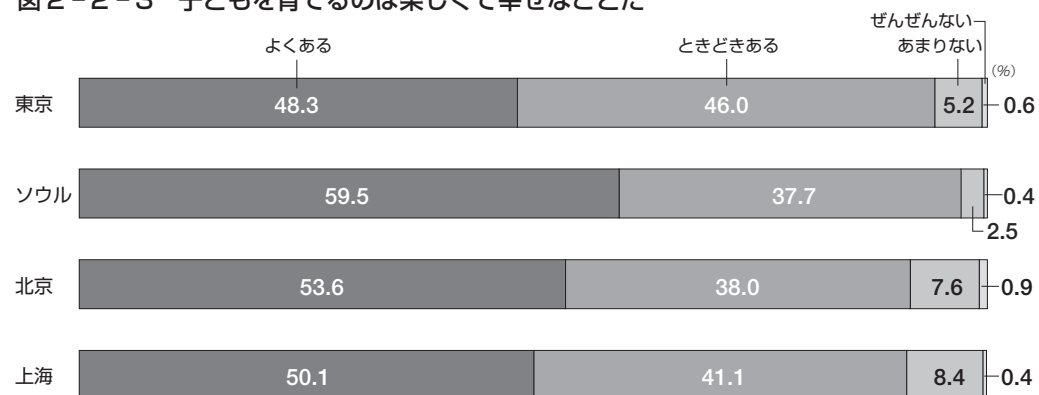


図2-2-4 子どもがかわいくてたまらない

